



# ゆりのき



No.23 2025年9月16日発行

JWU 子育てサイエンス・ラボが発行するニュースレター「ゆりのき」は子育てにまつわる様々なトピックやお気軽に参加できる「子育てサイエンス・カフェ」のご案内を掲載しています。以前の「ゆりのき」も[公式 HP](#)で閲覧できます



## TOPICS

- 教員インタビューリレー ● 第24回子育てサイエンス・カフェ開催レポート
- 第25回子育てサイエンス・カフェのお知らせ ● 板橋区立中央図書館連携事業 ● お知らせ

Interview



## 教員インタビュー リレー

Vol. 3

様々な教員の研究内容や、JWU 子育てサイエンス・ラボでの活動をご紹介します。

### Q.1 研究や専門について教えてください。

臨床心理学が専門なので、基礎的な調査や観察研究と、臨床実践に関する研究の両方を行っています。基礎的な研究では、母親の分離不安の研究と、妊娠期や産後の抑うつが子どもの発達にどのように影響を及ぼすのかについて、子どもの問題行動や社会性の発達、親子コミュニケーションなどの観点から縦断研究をしています。また、臨床実践研究では、乳幼児期の子育てをしている親を支援するために、具体的な助言が有効な場合と、親自身の心理的支援が有効な場合の違いについて研究をしています。

### Q.2 研究を始めたきっかけはなんですか。

カウンセリングをしていて、何らかの問題が生じる前にそれを回避するような予防的介入ができないかと考えたことがきっかけです。ちょうど、2000年代の初め頃から、「発達精神病理学」という問題行動の発現過程を発達科学的に検証するアプローチが盛んになり、幼少期の環境が同じでも、その後不適応に陥る場合とそうでない場合の相違について検討し、リスクを回避するための予防的介入を見出すことが可能であることを知りました。そうした研究を自分でも行い、臨床実践に生かしたいと考え、知人達と共同研究を始めました。

### Q.3 ご自身の研究が、実際の子育てや教育、社会の中でどのように活かされることを期待しますか。また大学での教育活動には、どのように反映していますか？

**【子育て・教育・社会の中で】**子育ての困難感や子どもの発達の問題は、多様な要因が複雑に交錯して生じます。縦断研究では、単純な因果関係ではなく、様々な要因が複雑に絡まりあいながら変化する過程を検討することができ、リスクが回避され問題が発現しない過程で何が防御要因になっているのかを探ることに役立てられます。研究で得られた知見から、問題が発現する前に予防できるような啓発活動や社会的支援のしくみを作ることによって、親が安心して子育てができ、子どもが持っている力を十分に伸ばせるような環境づくりにつながればと願っています。

**【大学での教育活動において】**子どもは社会の中で育つこと、親以外の多くの人との関わりが子どもの発達にとって重要であることを学生には伝えたいと思っています。また、学生自身の成長過程においても、問題が発生する兆候に早く気づき、リスクを回避する方法を考え実践することで、自らの人生をマネジメントできる力を身に付けられるように、課題解決型授業を行っています。

### Q.4 「子育て」に関わる方々へメッセージをお願いします。

「子育て」は、親だけでするものではありません。多様な人々が子どもに関わり、親も様々な人や制度に支えられることで、子どもが育つ社会環境が形成されます。一人で頑張りすぎず、たくさんの人に頼り日々のつらさを共有できると、親の心身の力が抜け、お子さんも安心し、本来の成長力が引き出されると思います。うまくいかないことやイライラすることもたくさんあると思いますが、そんな気持ちも皆で分かち合いながら、親子一緒に少しずつ成長できるといいですね。子育てサイエンス・ラボもそんな場所の一つになれば幸いです。



人間社会学部心理学科  
教授 塩崎 尚美

乳幼児とその親との関係を中心に、臨床心理学的視点からの実証的な研究と支援のための介入研究を行い、その結果に基づいた子育て支援や親子カウンセリングを実践している。

Next

次回は建築デザイン学部建築デザイン学科 平田 京子教授をご紹介します。

## 水の事故を防ぐ

—カヌーから学ぶ安全管理／危機管理—

### はじめに

夏は、海や山、河川でキャンプやアウトドアスポーツが楽しめる季節です。他方、水難事故が多く発生する時季でもあります。今回の講義では、カヌーで行われるレスキュー（救助）活動を事例に、環境に対する危険認識の違いに関するワークショップを交えながら、レスキューの原則、方法の選択、優先順位について確認し、安全管理と危機管理の関係について考えました。



日本女子大学社会連携教育センター  
ONLINE講座 参加無料 第24回 子育てサイエンス・カフェ  
大切ないのちを守るための講座  
夏のレジャー何に気をつけたいの？  
**水の事故を防ぐ**  
—カヌーから学ぶ安全管理／危機管理—  
日本女子大学人間社会学部現代社会学科 教授 大沼 義彦  
スポーツ社会学の分野で、1)スポーツイベントと社会変動、2)地域スポーツに関する研究を行っています。地域調査の中で手作りカヌーの実践に会い、授業科目として扱う。その後、カヌー顧問を務める(1997.4-2014.3)。  
夏は海や川でレジャーを楽しむ、そんな季節です。夏の活動は楽しい一方、水の事故も毎年発生しています。今回は、カヌーというスポーツで用いられている安全管理／危機管理の考え方や救助・行動の原則を学びます。危機的状況にどう向き合えばよいのか？ 何から始めればよいのか？ これらは「もしも」に備えること、災害の際にどのように行動したらよいのかにも通じます。皆さんと一緒に考えていければと思います。  
より深い学びとなりますよう、講座の途中でクイズ形式の参加型ワークをご用意しています。可能な範囲で結構ですのでZoomのボタンからご回答ください。

### レスキューからみたリスク(危険)とフィールドとの関係

まず、救助をする側からみた場合のリスクとフィールドとの関係を検討しました。スポーツ全般にもいえることですが、フィールドが広がるぶんだけ、リスクは増大します。救助する場合、フィールドが広くなればなるほど、リスクも大きくなり、それを回避するための技術・技能も求められます。そのため、あらかじめ危険な状況に陥らないよう、自らの技術・技能を確認したうえで、フィールドの大きさを決定するということが必要になってきます。

リスクに対する備えも重要です。「準備9割」といいますが、フィールドに行く前には下見、付近の病院、警察、消防の確認、もしもの時の連絡先などもあらかじめ決めておく必要があります。



リスクに対する認知には、個人の経験や知識によって差があります。初めて行く海や川では特に注意が必要です。地形や気象条件によっては予期せぬ事態が生じるためです。できるだけその土地や地元の情報を集めておくことが大切になります。

### レスキューの3原則

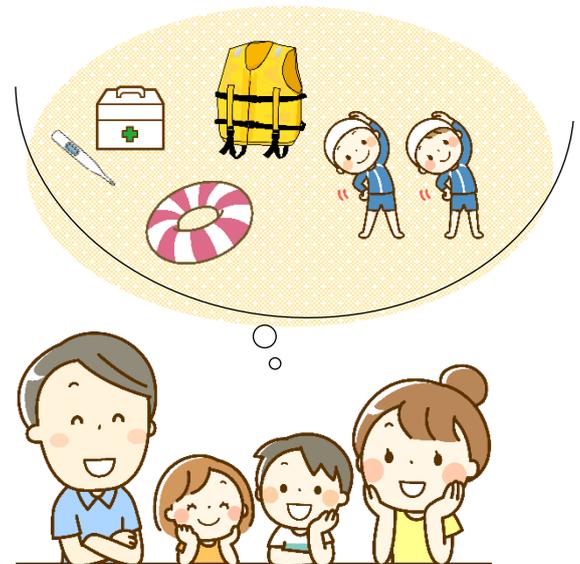
では、河川で溺れている人を発見した場合、どうすればよいでしょうか。方法の選択が重要になります。

方法は、**早くて (speed)**、**簡単で (simple)**、**安全な (safety)** ものを選択することになります。まずは、溺れている人に声をかける、仲間を呼ぶ、救急車を呼ぶなどです。救急隊が到着するまでが実際にレスキューに当たる時間となります。救急車が到着するまでの時間は、全国平均で約10分弱（但し状況や地理的環境により大きく異なります）です。この最初の行動を冷静かつ素早く起こせることが重要です。しかし、これがまた難しいのが現状です。急なことで何をどうしてよいか、混乱してしまうからです。最初の声かけ一つですが、それがとても大切になります。

### おわりに

レスキューは、アクシデントが起きてから行うこと、すなわち危機管理にあたります。アクシデントを境に**危機管理**と**安全管理**は分かれます。そう考えると、危機を事前に回避することやそれに備えること、つまり安全管理が日常的にはとても重要であることがわかります。これは、カヌーなどの活動に限らず、災害等、日常生活にも通ずることであるといえます。

（人間社会学部現代社会学科 教授 大沼 義彦）



### 【お知らせ】

第25回子育てサイエンス・カフェは11月22日（土）  
詳しくは次のページをご覧ください！



次回の子育てサイエンス・カフェは！

## 第25回 子育てサイエンス・カフェ



親も子ども安心できる、心の距離を大切にしたいコミュニケーションとは？

# 大切にしたい家族の会話



フィンランド発

## 「対話実践」に学ぶ、コミュニケーションのヒント

家族は身近な存在であり、大切に思う人は多いと思います。親も子ども安心できる子育てのためには、親子関係だけでなく、家族全員の関係や、子どもを取り巻く大人たち同士の関係も、安心できるものでありたいですね。でも、大切に思うからこそ、時には気になることや、心配になることがあるのではないのでしょうか。フィンランド発の「対話実践」を例に、互いの距離感を尊重しながら、思いを受け取り、届けるためのヒントとなるような、一つの工夫についてご紹介し、一緒に考えたいと思います。

講師

日本女子大学人間社会学部心理学科 教授 青木 みのり

臨床心理学の中で、家族、学校など、人と人との相互作用に関する実践と研究を行う。研究においては、家族や学校などの集団内でのコミュニケーションに関心を寄せ、自身のゼミでも、ゼミ生相互の関わりを大切に、率直に意見を出し合える生き生きとしたゼミを目指して指導を行っている。

日時

2025年 11/22(土)  
10:30~12:00

Zoomによるオンライン開催です。  
ご自宅からお気軽にご参加ください。  
※カメラのON・OFFはご自由に設定ください。

申込み

QRコード または URL からお申込みください。

<https://forms.office.com/r/XHieXMR3cy>

お申込み受付後、Zoom 詳細情報をメールにてお送りいたします。

▼申込み



●どなたでもご参加いただけます。 ●参加費無料



## 板橋区立中央図書館連携事業のお知らせ



### 第7回 歌ってあそぼう わらべ歌！

日時：11月8日(木) 対象：板橋区内在住小学生(先着10名)

申込み詳細は、10月以降に板橋区立中央図書館のHPでご案内！

内容：わらべ歌をテーマに遊ぶ小学生対象のイベントです。子どもたちが歌う歌声は、録音されイタリアのポローニャ市立サラボルサ児童図書館に共有され、ホームページに掲載されています。

第5回歌ってあそぼう わらべ歌！の様子をご紹介します。



サラボルサ児童図書館「POLPA」プロジェクト HP  
(イタリア語)

>RimPOLPA Itabashi (わらべ歌掲載あり)



日本女子大学人間社会学部心理学科×日本女子大学心理相談室（社会連携教育センター分室）共催

## 臨床現場で役に立つ心理アセスメントの所見作成に向けて

参加費  
無料

12月14日（日）

13:30 ▶ 15:30（開場 13:00）

会場 日本女子大学目白キャンパス百二十年館 12001 教室  
〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1

講師

加藤 志ほ子（南青山心理相談室）

本学児童学科を卒業後、精神分析の専門家として長く保健医療領域で活躍。ロールシャッハテストの力動的な解釈の経験を積み、専門書を執筆している。

概要

講師の専門家としての歩みを紹介するとともに、その経験に基づき、臨床現場において重要である心理アセスメントの所見の書き方について、「どのように検査依頼者へ結果を伝えるか」に焦点を当ててお話します。

申込み

定員 100名 ※事前申込制

QRコードまたはURLからお申込みください。

URL: <https://forms.office.com/r/SV45X4WhtW>



問合せ：日本女子大学心理相談室（社会連携教育センター分室）shinrisoudan@fc.jwu.ac.jp



日本女子大学  
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

## 心理相談室のご案内



日本女子大学心理相談室では、地域の皆様の心の相談をお受けしています。

たとえば…

- 子どもの発達や成長が気になる
- 不登校、集団になじめない
- 子育ての悩み
- 対人関係、親子関係
- 気持ちを整理したい
- 自分の性格、将来・生き方
- 自分を見つめたい など



相談は完全予約制です。お電話でお申込みください。

日本女子大学 心理相談室 03-5810-1507（直通）

受付：火曜～金曜 9時～17時／水曜 10時～18時

土曜 9時～18時



日本女子大学 心理相談室



「JWU 子育てサイエンス・ラボ」を運営する社会連携教育センターの公式 SNS アカウントです。

